



市民 登場

No.738

(一社)日本エコラップ協会 代表理事

谷口 志保 さん

◆たにぐち しほ 洗って繰り返し使え脱プラ商品として注目を集める食品用エコラップ「みつろうラップ」を販売。子どもの発育などを中心にカウンセリング業を行うエシカルカウンセラー代表。北中振在住。45歳。

ミツバチの巣から得られる蜜蝋を布に染み込ませて作ったみつろうラップ。本格的に販売を始めたのは昨年2月から。熱には弱いものの、脱プラ、SDGsの時代にマッチし、使い捨てでなく環境にやさしい商品として百貨店などから出店依頼が相次ぎ、約3000枚を売り上げている。こだわりは国内の養蜂園から取り寄せた蜜蝋とオーガニックコットンを使っていること。蜜蝋にココナッツオイルや天然樹脂の配合する量を調節して密着と持続性のバランスをとるなど試行錯誤を重ねて「安全安心な素材を使い胸を張って届けられるものを作れました」。

きっかけは3年前、旅先のバリ島で目にした可愛いデザインのエコラップ。現地では日本より一足早くプラスチック製品の規制があったが、海岸には多くのプラごみが漂着していた。それまで環境問題に関心はなかったが「自分のできることで子どもたち

に良い環境を残してあげたいと感じました」。これまでは生産から販売まで、ほぼ1人で取り組んできたが、みつろうラップづくりの講師をしてみたいとの声に応えるため10月に日本エコラップ協会を発足させた。今後ラップの生産技術やワークショップの運営方法などを資格として認定する。「一人で広めるには限界がある。全国に講師を増やしてエコラップを広めたい」と意気込む。

活動の原動力は、これから生きる子どもたち。子育てをしながら通信制大学で資格を取得して始めた本業のカウンセリング業では子どもの発育分野を中心に気軽に相談できる場を作りたいと開業した今もなお大学病院の研究サポートをしながら学び続けている。「小さくてもできる範囲で、良いことを積み重ねていきたい」というエシカル（道徳的）な想いが会社の屋号に込められている。



特別編

「心和む、名護」(関連6~9ページ)

はいさい!名護市です。今月号の表紙は、名護市にある21世紀の森ビーチで撮影しました。市街地にありながら、のんびりリラックスできる静かなビーチです。赤瓦の東屋が沖縄らしいですね。枚方市民の皆さんが遊びに来てくれるのを楽しみにお待ちしています!めんそーりよー♡



表紙の写真募集!

枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募 電子メールに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報プロモーション課(✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。

※応募作品は市公式のフェイスブックやインスタグラムで公開します。